

ゼネラルパッカー通信

証券コード：6267

平成29年7月期（第56期）2016年8月1日▶2017年7月31日



世界の品質を
“包装”で守る



包装システムのトータルプランナー

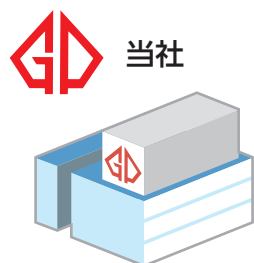
ゼネラルパッカー株式会社

創造と挑戦 — 感ずる、信ずる、行動する —

わが社はつねに、独創的な技術を活かし、
顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。

GOT グループ



当社

包装機械

各種自動包装機械及び
周辺装置の製造・販売

- ・当社主力の包装技術
- ・ガス充填包装
- ・チャック付
スタンドパウチ包装

生産機械

食品製菓機械の
製造・販売

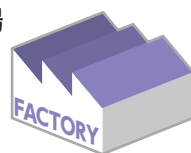
オサ機械
株式会社



当社グループのお客様

主要ユーザー

工場



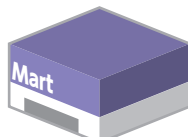
食品分野

化学分野

医薬品分野

その他

店舗



- ・スーパーマーケット
- ・コンビニエンスストア
- ・ドラッグストア
- ・ホームセンター等

食品分野

化学分野

その他

キャンディ ナッツ類 お米・米菓
パン粉 小麦粉 ドリップコーヒー
花かつお お茶 チョコレート
ふりかけ かち割り氷 健康食品

病院



医薬品分野

輸液パック
カテーテル
粉末薬品

魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、
汎用性の高い製造技術を蓄積。また、
全従業員のうち 1/3 が開発部およ
び技術部に所属、トータル人事シ
ステムに基づき、業界認定によるス
ペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での 高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷な
ど、多くの分野でのトップシェア獲
得が安定した収益基盤につながって
おり、当社は上場以来赤字がありま
せん。また、オサ機械はチョコレート
製造機械分野でトップシェア。

▶ P9へ

魅力4 新規分野・ 海外分野への成長

新規分野の開拓による事業領域の拡
大と海外マーケットでの成長を続け
ています。

魅力5 安定した株主還元

DOE 2 % 以上の安定配当を続けて
います。

▶ P4へ

新たな体制で 新中期経営計画の実現に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

この度、平成29年10月25日に開催されました第56期定時株主総会及び同日開催の取締役会をもちまして、
牧野 研二が代表取締役社長に就任いたしました。経営体制の一層の強化、充実を図り、皆様のご期待に応えら
れるよう企業価値向上に向け専心努力してまいります。

ここに、ごあいさつをかね、当社第56期（平成28年8月1日から平成29年7月31日まで）の営業状況および新中
期経営計画についてご説明させていただきます。ご一読の上、引き続き当社事業へのご理解とともに、さらなる
成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 牧野 研二

当期の事業環境と営業活動の成果

当社は、平成28年9月1日にオサ機械株式会社の発行済
株式の全株式を取得し子会社化したことから、平成29年7
月期より、単体決算から連結決算へと移行いたしました。
また、平成28年3月30日に設立いたしました、当社100%
出資子会社の蘇州日技通用包装机械有限公司は、当社業
績に与える影響が軽微であったことから平成28年7月期は
非連結子会社としていたものの、重要性が増したことから
平成29年7月期より連結の範囲に含めることといたしまし
た。また同時に、単一セグメントから「包装機械」「生産機
械」の2セグメントに変更しております。

包装機械業界の環境は、国内の需要は堅調を維持すると
ともに、平成28年度の輸出高も5年連続で過去最高を更新
しており、好調に推移しました。一方、食品機械業界の環
境は、国内の需要は回復基調にありますが、輸出は減少基
調で推移しました。

当社の業績においては、高額案件、海外市場の増加によ
る包装機械の増収に加え、連結子会社化による生産機械の
増加によって、増収となりました。利益面では、包装機械

第4次中期経営計画総括

	H29.7期計画	H29.7期実績(単体)	計画比	H29.7期実績(連結)
売上高	5,500百万円	5,799百万円	+299百万円	6,651百万円
営業利益	295百万円	393百万円	+98百万円	293百万円
経常利益	300百万円	396百万円	+96百万円	297百万円
当期純利益	200百万円	290百万円	+90百万円	188百万円
売上高経常利益率	5.5%以上	6.8%	+1.3p	4.5%
ROA（総資産経常利益率）	5.5%以上	6.7%	+1.2p	4.3%
ROE（自己資本当期純利益率）	6.0%以上	8.7%	+2.7p	5.6%

単体では
全項目を達成

連結では利益及び
利益率が計画を下回る

総括

- 売上高（単体）は、保守消耗部品の需要が好調に推移し、計画を上回る。
- 海外事業の強化は、ほぼ計画通りに推移したが、ソリューションビジネスの拡大は、十分には進展せず⇒第5次中期経営計画（P5-6）へ持ち越し。
- 最終期に連結へ移行：M&A費用・無形固定資産償却が影響し、連結経常利益率が低下。

課題

グループ事業連携と連結利益率の向上

で増益となったものの、生産機械において、売上総利益が計画を下回ったことから、無形固定資産の償却にて営業損失が発生する結果となりました。

包装機械について、売上高をエンドユーザーの業種別に見ると、食品業界向けが堅調に推移したことに加え、海外のペットフード向けなど、その他業界向けも増加しました。また、売上高を国内・海外の市場別に見ると、国内市場向けは販売台数が減少したことから減収となったものの、海外市場向けは高価格機種の販売台数の増加により増収となりました。

第5次中期経営計画スタート

平成29年7月期を最終年度とする第4次中期経営計画においては、国内市場では売上高の横ばいを計画していましたが、ソリューションビジネスの拡大が十分に進展せず、大型システムの実績が減少したことから、計画を下回りました。一方、海外市場では、最終期で売上高10億円まで伸ばすことを計画しておりましたが、高価格機種の販売増加により、計画を上回る成果となりました。また、保守消耗部品でも、売上高は横ばいの計画でしたが、高額保守の需要が増加し、計画を大きく上回りました。これらのことより、単体決算では数値目標の全項目を達成することができました。

一方、連結決算では、最終期に連結へ移行したことから、M&A費用と無形固定資産償却の影響により、利益及び利益率が目標を下回る結果となりました。

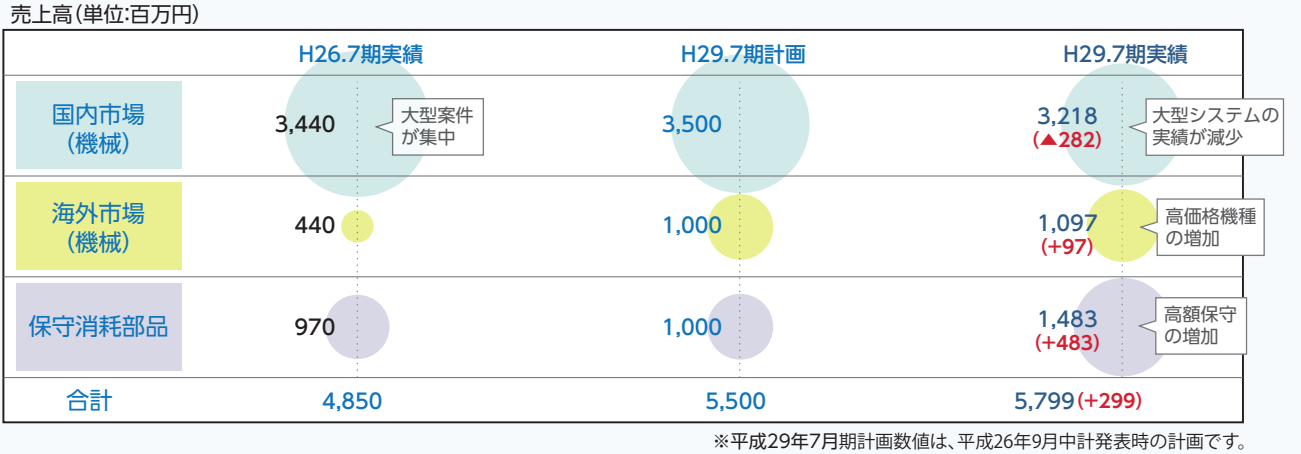
当社が今後、持続的な成長を図るためには、グループ事業連携と連結利益率の向上が、重要課題であると考えています。

このことをうけて、この度策定し始動した第5次中期経営計画では、「連結グループの基礎固めから成長基盤構築の時期」と位置づけ、連結決算での利益率の向上と収益の拡大を図ることに取り組んでいきます。（第5次中期経営計画の詳細についてはp.5～6をご参照ください。）

第57期の見通し

平成30年7月期の業績見通しについては、売上高67億円（当期比0.7%増）、営業利益3億5千8百万円（同22.0%増）、経常利益3億6千万円（同21.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益2億4千万円（同27.1%増）を予想しています。前提として、生産機械において大型プラントが減少するものの、包装機械における海外市場の増加により、増収を見込んでいます。費用面では、無形資産償却額と調整額の減少によって増益となる見通しです。

【単体】事業計画モデル（第4次中期経営計画総括）

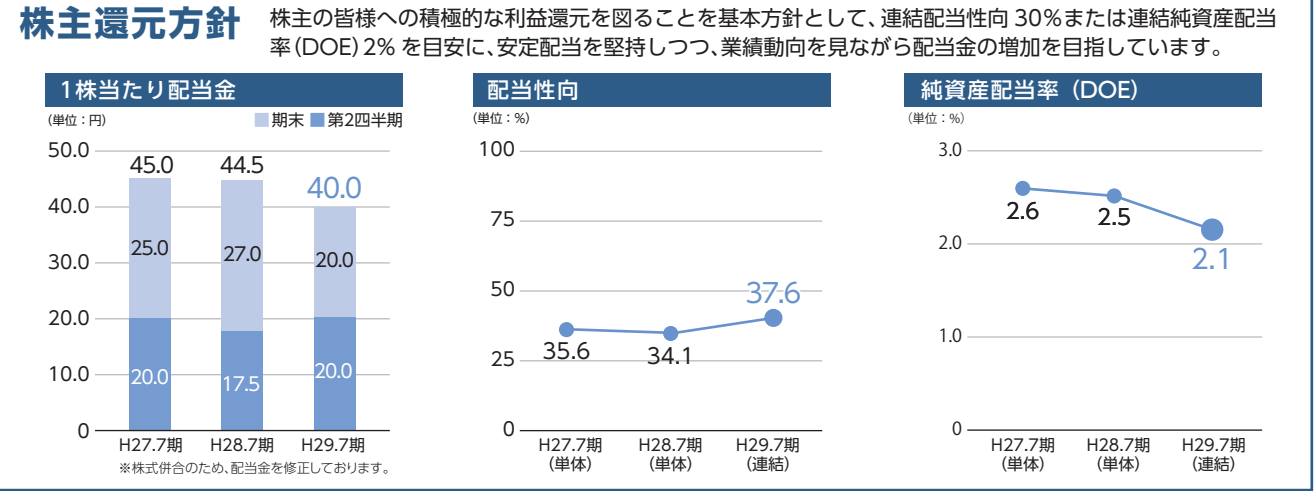


株主の皆様へのメッセージ

連結初年度の平成29年7月期は、減益となったため、期末配当は1株当たり20円とさせていただきます。これにより、第2四半期末配当の同20円と合わせた年間配当額は同年40円となりました。平成30年7月期は、増益予想のため、年間で同44円を予定しております。

当社は食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会的貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



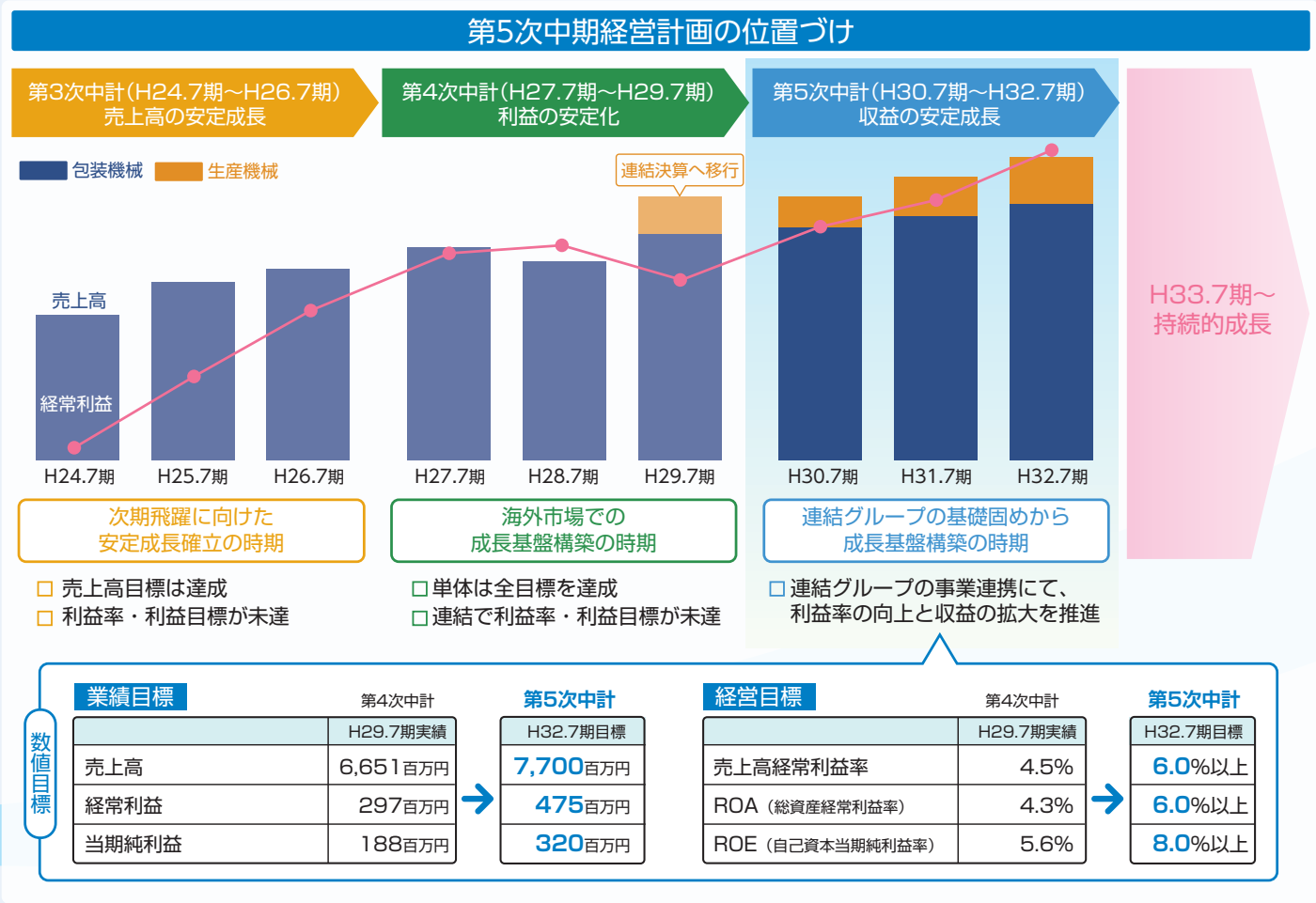
第5次中期経営計画始動！連結グループ

当社は、平成 30 年 7 月期から平成 32 年 7 月期までの 3 期間を対象とする『第 5 次中期経営計画』を策定しました。

平成 29 年 7 月期を最終年度とする第 4 次中期経営計画では、「海外市場での成長基盤構築の時期」と位置づけ、利益の安定化に取り組んできました。海外事業の強化は計画通りに進展しましたが、持続的成長を図るためには、グループ会社間の

事業連携にて成長基盤を強化していくことが重要な課題と考えています。

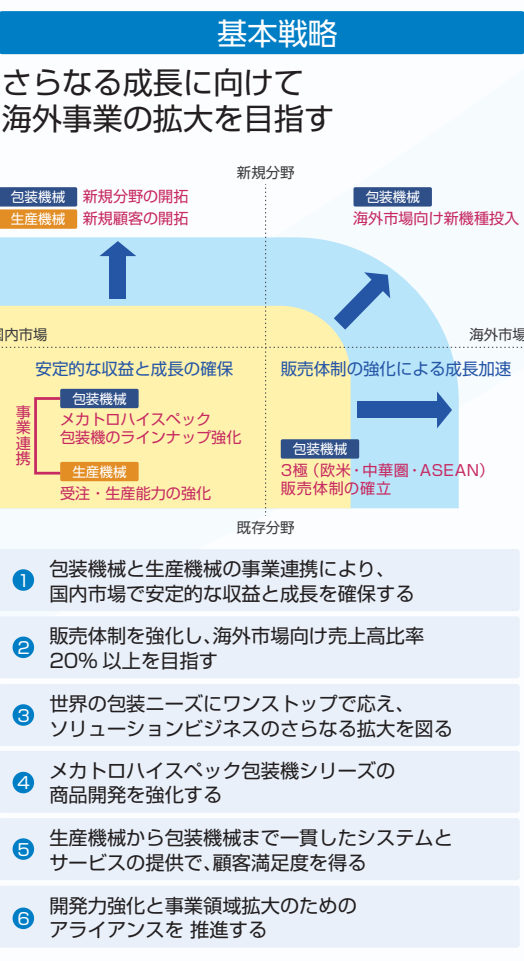
このことから、『第 5 次中期経営計画』では、「連結グループの基礎固めから成長基盤構築の時期」と位置づけて、連結グループの事業連携による利益率の向上と収益の拡大に取り組んでいきます。



の基礎固めから成長基盤の構築へ

中期経営ビジョン

- 1 世界に選ばれ、信頼される G P グループ
- 2 オープンイノベーションで応えるソリューションカンパニー
- 3 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』



主な経営施策

販売戦略

- 1 【包装機械】海外 3 極 (欧米・中華圏・ASEAN) 販売体制の確立
- 2 【包装機械】海外市場向け新機種の拡販
- 3 【包装機械】国内市場でのメカトロハイスベック包装機の拡販と新規分野の開拓
- 4 【生産機械】受注体制と新規顧客開拓の強化

開発・技術戦略

- 1 メカトロハイスベック包装機及び海外市場向け新機種の開発
- 2 メカトロモーション技術と差別化できるコア技術の強化
- 3 海外市場向け開発・設計対応力の強化
- 4 プロジェクトマネジメントの強化と開発・設計の生産性向上
- 5 人材強化と 3D CAD をベースに開発・設計プロセスの革新

生産・資材戦略

- 1 標準化と IT 化の推進による生産力の強化
- 2 品質管理体制の強化
- 3 アフターサービス対応力強化
- 4 購買管理体制とコスト競争力の強化

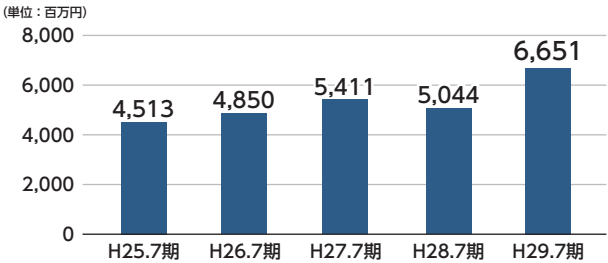
マネジメント戦略

- 1 グループ経営管理体制の強化
- 2 経営基盤(人材確保・育成、インフラ整備)の強化
- 3 働き方改革の推進と人事労務政策の充実

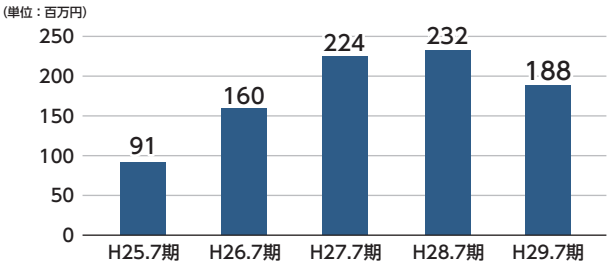
IT戦略

- 1 基幹システムの機能強化とクラウド化推進
- 2 生産性向上の IT 導入・活用の推進
- 3 ホームページ再構築とネット PR の強化

売上高



親会社株主に帰属する当期純利益



(注) 平成28年9月1日付でオサ機械株式会社を完全子会社化いたしました。
そのため、平成28年7月期までは単体、平成29年7月期は連結決算となっております。

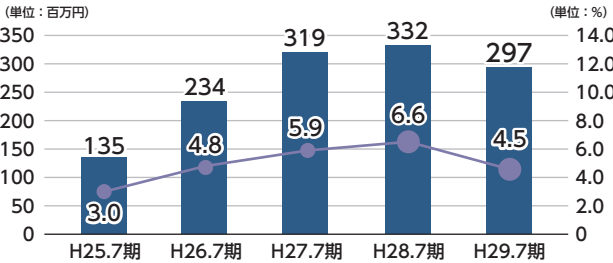
経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費に持ち直しの動きがみられ、雇用・所得環境においては改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

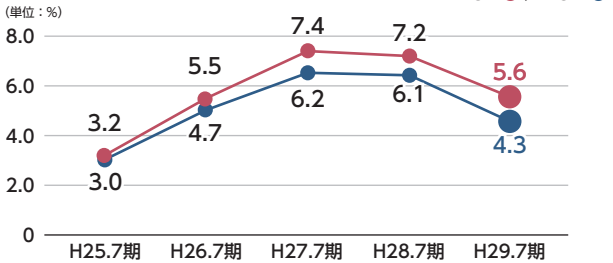
このような状況のなか、当社グループは海外事業の強化、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。また、事業領域の拡大のため、食品製菓機械メーカーのオサ機械株式会社の完全子会社化を実施いたしました。

当期の売上高につきましては、包装機械で高額案

経常利益／売上高経常利益率



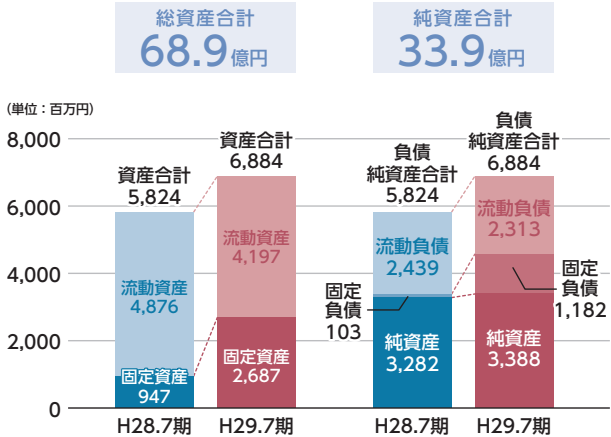
ROE／ROA



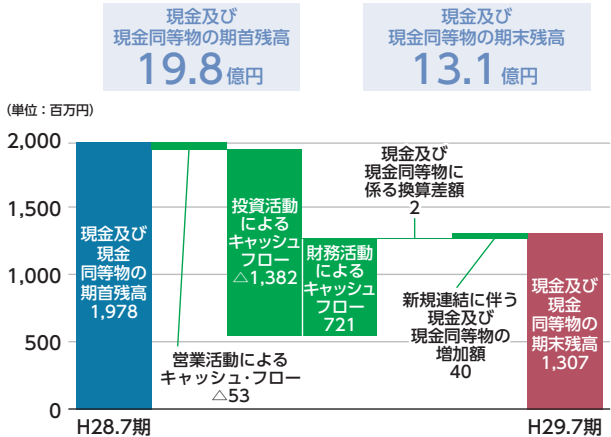
件の実績や海外市場が増加したことや、連結子会社化により生産機械の売上が加算されたことにより、前期に対して1,606百万円の増収となりました。

収益面につきましては、包装機械で増益となったものの、生産機械で僅かに営業損失が発生したことと、M&A費用を計上したことから前期に対し減益となりました。

財務状況

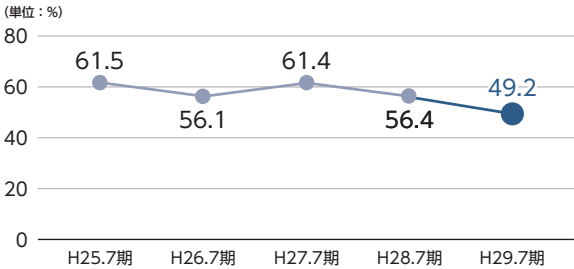


キャッシュ・フローの推移



(注) 平成28年9月1日付でオサ機械株式会社を完全子会社化いたしました。そのため、平成28年7月期は単体、平成29年7月期は連結決算となっております。

自己資本比率



財務分析

当期における資産合計の主な内訳は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が 1,633 百万円、現金及び預金が 1,408 百万円、棚卸資産が 1,053 百万円、のれんが 696 百万円であります。負債合計の主な内訳は、仕入債務が 1,172 百万円、長期借入金 (1 年内返済予定を含む) が 858 百万円であります。

キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果使用した資金は、53 百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益 300 百万円、たな卸資産の減少額 269 百万円、売上債権の減少額 256 百万円等であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額 868 百万円等であります。投資活動の結果使用した資金は、1,382 百万円となりました。収入の主な内訳は、定期預金の純増額 99 百万円等であり、支出の主な内訳は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 1,504 百万円等であります。

※当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを従来の単一セグメントから、「包装機械」と「生産機械」の2つのセグメントに変更しております。

■包装機械

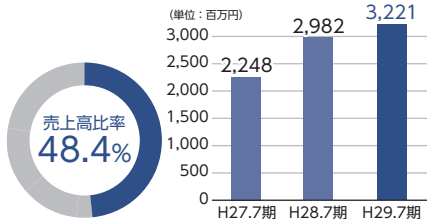


主力の給袋自動包装機を中心に高額案件の実績が増加したことから、売上高は5,724百万円（前期比13.5%増）、営業利益は370百万円（前期比11.5%増）となりました。

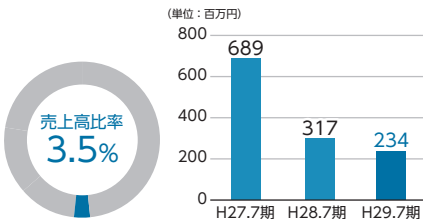
給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）

製袋自動包装機

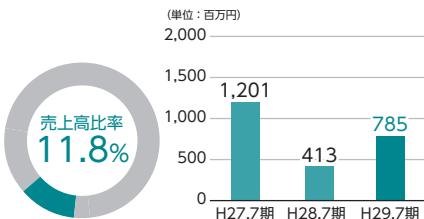
包装関連機器等



売上高 3,221 百万円 前期比8.0%増



売上高 234 百万円 前期比26.1%減



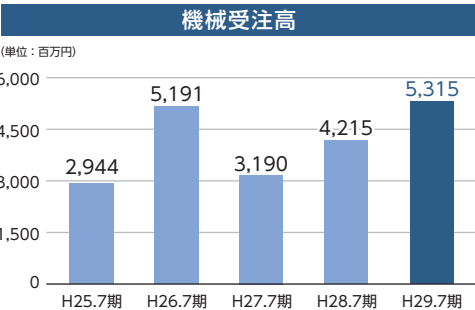
売上高 785 百万円 前期比89.9%増

■生産機械

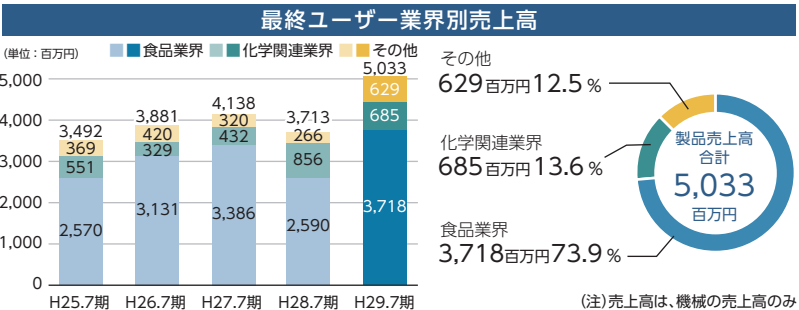


大型のプラント案件を中心に、売上高は927百万円となりましたが、無形固定資産の償却のため、営業損失が発生する結果となりました。

売上高 927 百万円



(注) 平成28年9月1日付でオサ機械株式会社を完全子会社化いたしました。
そのため、平成25年7月期から平成28年7月期までは単体、平成29年7月期は連結決算となっております。



(注) 売上高は、機械の売上高のみ

会社概要（平成29年7月31日現在）

商 号	ゼネラルパッカー株式会社
英 文 社 名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設 立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資 本 金	2億5,157万7千円
事 業 内 容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、食品製菓機械の製造・販売
従 業 員 数	164名(連結) 139名(単体)
本 社 ・ 工 場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺 神明65番地 Tel.(0568) 23-3111 (代) Fax.(0568) 22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03) 3256-3891 (代) Fax.(03) 3256-3893
子 会 社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装机械有限公司



役員（平成29年10月25日現在）

代表取締役社長	牧 野 研 二	
取締役会長	梅 森 輝 信	
取締役副社長	小 関 幸太郎	オサ機械(株) 代表取締役
常務取締役	鈴 木 完 繁	オサ機械(株) 代表取締役社長
取締役	尾 関 津 義	蘇州日技通用包装机械有限公司 董事長
社外取締役(監査等委員)	福 井 義 雄	
社外取締役(監査等委員)	村 橋 泰 志	
社外取締役(監査等委員)	浅 井 一 郎	
社外取締役(監査等委員)	井 土 信 行	

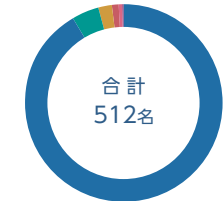
株式の状況（平成29年7月31日現在）

発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式総数	1,798,800株
株主数	512名

大株主（平成29年7月31日現在）

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社ワイ・イー・データ	270,000	15.20
ゼネラルパッカー従業員持株会	265,800	14.96
株式会社りそな銀行	78,400	4.41
高野 季久美	77,800	4.38
田中 かな	77,800	4.38
ゼネラルパッカー取引先持株会	75,300	4.24
原 紳二郎	68,812	3.87
MSIP CLIENT SECURITIES	56,000	3.15
梅森 輝信	53,300	3.00
原 晋一郎	48,788	2.74

株主数構成比



個人・その他	469名	91.60%
その他法人	23名	4.49%
証券会社	11名	2.15%
金融機関	5名	0.98%
外国人	3名	0.59%
自己名義	1名	0.19%

株式数構成比



個人・その他	1,276,745株	70.98%
その他法人	336,080株	18.68%
証券会社	92,600株	5.15%
金融機関	56,600株	3.15%
外国人	21,469株	1.19%
自己名義	15,306株	0.85%

IR サイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html

企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

6年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR 情報などをご覧ください。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

1. 決算説明会
2. IR カレンダー
3. 個人投資家の皆様へ

お勧め情報 ランキング

IR サイトの中から株主や投資家の皆さまのお役に立つ、当社お勧めの情報をランキング形式で紹介します。(不定期更新)



個人投資家の皆さまへ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。



▲トップページ

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等
証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222
●東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

UD
FONT

ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022915

VEGETABLE
OIL INK